

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026年 2月 4日

ヒューマンアカデミー株式会社 御中

〒 171-0022

所在地 東京都豊島区南池袋2-49-7池袋パークビル1F

評価機関名 パブリックサービスR&C合同会社

認証評価機関番号

機構 09 - 190

電話番号 03-4570-8659

代表者氏名 代表社員 臼井 淳



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	青木 みな子	福祉	H1401019
	②	田畑 昌代	経営	H0401042
	③	狩野 節子	福祉	H1101048
	④	臼井 淳	福祉、経営	H0405013
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	地域型保育事業 事業所内保育所			
評価対象事業所名称	てくてく保育園			
事業所連絡先	〒	145-0061		
	所在地	東京都大田区石川町1-1-18 東京科学大学国際交流会館本館1階		
	TEL	03-3728-5370		
事業所代表者氏名	園長 中澤 美和			
契約日	2025年 5月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 9月 5日			
利用者調査結果報告日	2025年 10月 8日			
自己評価の調査票配付日	2025年 9月 5日			
自己評価結果報告日	2025年 10月 8日			
訪問調査日	2025年 10月 15日			
評価合議日	2025年 12月 9日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	第三者評価の実施にあたり、当機関における評価の進め方やスケジュールについて保育園と事前に打ち合わせ、職員に対して自己評価方法の説明会を開催しました。利用者調査は、入園している全ての子どもの保護者を対象としたアンケート調査を実施しました。事業評価は、経営層及び職員個別の自己評価並びに利用者調査結果を分析した上で、評価者間で調査時の着眼点を共有し、訪問調査に臨みました。訪問調査では、園長や関係職員に対するヒヤリングと書類の確認を行いました。訪問調査後、評価者間の合議により評価結果をまとめました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

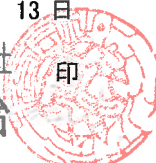
本報告書の内容のうち、


- ① 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ② 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ③ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026年 2月 13日

事業者代表者氏名 ヒューマンアカデミー株式会社

代表取締役 今堀 健治



1	<b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 安全で安心できる保育</li> <li>2) 地域に根差した園づくり</li> <li>3) 園と保護者が共に子どもの未来を考える</li> <li>4) こどもの自立の芽を育てる</li> <li>5) 受け止める保育・支える保育・待つ保育</li> </ol> 
2	<b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりを見守り、柔軟な保育ができる</li> <li>・待つ保育ができる</li> <li>・常に向上心を持ち前向きな発言や行動ができる</li> <li>・新しい発想柔軟に理解し、行動に移せる</li> </ul>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事に対して責任がある</li> <li>・他職員とのコミュニケーションが円滑である</li> <li>・チームワークがとれる</li> </ul>

調査対象	令和7年9月現在、ヒューマンアカデミーてくてく保育園に在籍している子ども(総数9名)の保護者全世帯(8世帯)を対象に実施しました。		
調査方法	アンケート方式。評価機関から保育園に対し、本調査のお知らせの園内掲示と個別のID・パスワードを記載した調査案内用紙の配付を依頼して実施しました。保護者には当評価機関専用のWebアンケートサイトから回答を入力してもらいました。		
利用者総数	9		
利用者家族総数(世帯)	8		
共通評価項目による調査対象者数	8		
共通評価項目による調査の有効回答者数	7		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	87.5		

**利用者調査全体のコメント**

てくてく保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が100%(8名)と、回答した保護者全員が満足しているという非常に高い評価が得られています。共通評価項目では、「はい」との肯定的な回答割合が最も高かったのは、「1.園での活動は子どもの心身の発達に役立っているか」、「9.施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか」、「13.子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」等の13項目で100%でした。総合的な意見では、「いつも手厚く保育をしてくださり、ありがとうございます。行事や日々の活動が充実しており、子どもも毎日楽しく保育園に通っています。連絡帳でも日々の活動の様子を丁寧に記載してくださっており、またお迎えの際にも子どもの様子を話してくださるので、本当に安心して子どもを預けられる環境だと感じております」、「いつも子ども達に合わせて柔軟に保育をしてくださっていて大満足しております。子ども達もリトミックや制作、探究学習やプールなど、毎日保育園を存分に楽しんでおりました」、「文化を大切にしてくれているから」、「細やかに伝えていただいているので特にございません」等のコメントが寄せられました。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	7	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「先生やお友達との関わりで心身の発達に役立っていると感じます」、「小規模保育園ならではの、目が行き届いていると感じます」とのコメントが寄せられていました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	7	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「食育や様々な製作など、子どもがとても興味を持っていると感じます」とのコメントが寄せられていました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	7	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	7	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。  自由記述には、「園庭がない反面、子ども達の要望に合わせて、散歩を一日2回ほど毎日行ってくれており、本当に貴重な経験をさせていただいていると思います。近所には自然豊かな洗足池公園があり、自然体験をたくさんさせてくださっています」とのコメントが寄せられていました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	6	0	0	1
<p>回答割合は、「はい」が85.7%となっています。  自由記述には、「一度しか当日急遽の延長はお願いしたことがないのでなんとも言えませんが、その先は快く15分延長を引き受けてくださいました」とのコメントが寄せられていました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	7	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。  自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	7	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。  自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	7	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。  自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	7	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。  自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	7	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。  自由記述には、「全員マナーや身だしなみがきちんとされていてとても信頼できます」とのコメントが寄せられていました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	7	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「毎回きちんと全て報告して下さります」とのコメントが寄せられていました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	4	0	0	3
回答割合は、「はい」が57.1%となっています。 自由記述には、「いさかやいじめはほぼ無いようです」とのコメントが寄せられていました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	7	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	7	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	7	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	6	1	0	0
回答割合は、「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%となっています。 自由記述には、「基本的にコミュニケーションも取りやすいですし、目の行き届いた素敵な保育園です。ただ、トイレトレーニングは2歳児クラスの秋から冬にかけて(12月の場合もあるとのこと)始めるとのことまだ始めていません。トイレトレーニングの考え方は園や人や教育法によってそれぞれありますが、3歳過ぎてからは希望に応じて始めていただきたいのが本当の気持ちでした」等のコメントが寄せられていました。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	6	1	0	0
回答割合は、「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	カテゴリー1	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	評点(〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	評点(〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	評点(〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	<p><b>園内掲示や唱和を通じて理念や目標への理解を深め、日々の保育にあたっています</b>                  保育理念「こどもの自立の芽を育てる」のもとに、保育方針「受け止める保育・支える保育・待つ保育」を掲げ、自主性、社会性、慈愛の心を育む保育を目標としています。理念や目標は、常に目にとまるよう事務室や玄関に掲示しています。毎月の職員会議では理念を唱和し、常に保育の根底に存在するようにしています。週案会議の際も理念や目標を念頭に置き、日々の保育に反映するよう努めています。保護者には、パンフレットや「入園のご案内(重要事項説明書)」を用いて、見学や入園前オリエンテーションの際に、園概要とともに説明しています。</p> <p><b>園長は運営全体を統括し、職員が主体的に保育に取り組める環境づくりに努めています</b>                  園長、保育士、専門職の役割は職員業務分掌に明示し、年度初めに職員間で共有するとともに事務室に掲示しています。園長は園の運営全体を統括し、本部との連絡・調整を担っています。月1回の園長会では、保育情勢の現状を話し合い情報を共有しており、園長会の内容や会社の思いは職員会議で伝え、取り組むべき方向性を示しています。園長は、職員が主体的に保育に取り組める環境づくりを重視し、会議では自由に意見を交わせる雰囲気大切にしています。また、職員の発言のばらつきが保護者の不安につながらないように、確実な情報共有に努めています。</p> <p><b>園内の案件は職員会議で検討し、担当職員の意見を尊重して判断しています</b>                  運営に関する案件は本部で決定し、その内容を園長会で共有し、職員会議で経緯とともに周知しています。園内の案件は、正規職員(栄養士、看護師含む)が参加する職員会議、または保育者による週案会議で話し合い、決定しています。会議では全員の発言を促し、各部署の担当者の意見を尊重した判断に努めています。案件によっては、設置者である東京科学大学の意向を確認して決定しています。会議に出席した職員や非正規職員は、会議録の閲覧により情報を共有しています。保護者には、連絡アプリの配信や園だよりを通じて、決定事項等を周知しています。</p>	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
2 カテゴリー2の講評		
<p>アンケートを通じて利用者の意向を把握し、環境整備の継続を課題としています</p> <p>保護者の意向は行事後アンケートや園評価アンケートを通じて、率直な意見の把握に努めるほか、第三者評価の利用者調査結果も参考にしています。職員の意向は、毎年本部で実施する満足度アンケートの集計結果で把握するとともに、年3回の職員面談を通じて確認しています。地域福祉の現状や行政等の動向は、大田区小規模保育園園長会や、区内4地域に分かれて実施する地域会議に参加し、把握しています。園では、地域型事業所内保育園として大学内で事業を展開しており、学内枠の受け入れに向けた環境整備の継続を課題としています。</p> <p>中・長期計画と事業計画の連動性を高め、目標達成に向けて取り組むことが望まれます</p> <p>中・長期計画は園長が作成し本部と共有しています。長期計画(5年間)では「修繕・大型備品購入」、「保育の質向上」、「人材育成」、「地域交流推進」、「園児数充足計画」の5項目を設定し、主な内容を記載した上で、中期計画に2025～2027年度における各年度の具体的な取り組みを示しています。今年度の事業計画書には重点目標として、園児確保・保育の質向上・人材育成・ICT化システム継続等を掲げていますが、中・長期計画との連動性はやや曖昧と思われる。中期計画を事業計画に反映し、目標達成に取り組むことが望まれます。</p> <p>事業計画の進捗状況は中間と年度末に確認し、運営委員会で関係者に報告しています</p> <p>中期計画や事業計画の進捗状況は、中間と年度末の運営委員会開催に合わせて確認し、保育に関わる内容は報告書にまとめて運営委員会で報告しています。運営委員会は、設置者の大学担当者や本部担当者、第三者委員、保護者代表が参加して行っています。2024年度の事業報告書には、月ごとの園児在園数や園内外の研修受講状況に加え、行事や地域交流、探求活動等の様子を写真付きで分かりやすく掲載しています。さらに、園の課題とそれに基づく次年度の取り組みも明記していますが、重点目標の達成状況も明確にすることが望まれます。</p>		

3 経営における社会的責任			サブカテゴリ1(3-1)
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	<b>2/2</b>
<b>評価項目1</b> 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b> <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	<b>標準項目</b> 1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		<b>4/4</b>	
<b>評価項目1</b> 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			<b>評点(〇〇)</b>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	<b>標準項目</b> 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			<b>評点(〇〇)</b>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	<b>標準項目</b> 1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3(3-3)			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		<b>5/5</b>	
<b>評価項目1</b> 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			<b>評点(〇〇)</b>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	<b>標準項目</b> 1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			<b>評点(〇〇〇)</b>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	<b>標準項目</b> 1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ3の講評

**職員会議を通じて規範・倫理の確認や言動の振り返りを行い、適切な対応に努めています**

守るべき法・規範・倫理は就業規則や系列園共通の保育マニュアルに掲載し、職員が常時閲覧できる場所に保管しています。保育マニュアルには、全国保育士会倫理綱領をはじめ「人権保育(差別の禁止)マニュアル」や「服装・身なりのガイドライン」が掲載され、年度初めと中間の職員会議で確認するほか、年2回の面談時にも「スキル考課シート」を用いて確認しています。職員の言動は、他園の事例や報道、ヒヤリハット事例をもとに話し合い、相互に振り返りを行っています。また、年1回「自己点検シート」を活用し、不適切な言動の防止に努めています。

**入園案内や園内掲示で苦情解決の仕組みを周知し、苦情等には速やかに対応しています**

入園案内(重要事項説明書)に意見・要望等の受付・解決方法を明記し、解決責任者や第三者委員の連絡先を記すとともに、区の担当課や福祉サービス運営適正化委員会、設置者の連絡先を掲載しています。入園案内は入園時オリエンテーションで保護者に説明しており、玄関に意見箱を設置し苦情解決体制を掲示しています。要望等があれば苦情簿に記録して速やかに対応し、情報共有と再発防止に努めています。虐待の疑いがある場合は虐待対応マニュアルに沿って、観察や記録を丁寧に行い、必要に応じて、子ども家庭支援センターと連携して対応する体制です。

**ホームページの公開や保育体験、育児相談等を実施し、園の透明性を確保しています**

会社のホームページを通じて当園の情報を広く発信するほか、年2回の運営会議で園の活動内容を報告しています。ボランティアや実習生は、受け入れマニュアルに基づいて対応しています。大学の意向も踏まえ、広く一般からの受け入れは控えていますが、保育実習生や卒園児対象の保育士体験を実施しています。また、入園希望の見学者に保育体験や育児相談の場を提供するなどし、園の透明性を確保しています。区内や近隣の保育園とは、園長会や地域会議への参画を通じて連携し、協働できる体制を整えており、戸外活動中の安全対策等を共有しています。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p><b>自然災害や感染症に対応する事業継続計画を策定し、図上訓練を実施しています</b></p> <p>リスクの洗い出しは職員会議で行い、災害・事故・侵入・感染症の順に、優先して対策を進めています。園内での取り組みに加え、本部やリスク管理室と連携し、状況に応じた仕組みに基づいて対策を講じています。自然災害と感染症に対しては、事業継続計画(BCP)を策定し、事前及びBCP発動時の対策を明示しています。自然災害に関しては、発災時の時間経過別の対応や地域ニーズへの対応も記しています。園では、年1回の電気設備点検に伴う停電を活用して災害時の図上訓練を実施し、消火器や備蓄品、対応手順、役割分担等を確認しています。</p> <p><b>避難訓練年間表に基づいて避難・通報・消火訓練や不審者対応訓練を実施しています</b></p> <p>園では避難訓練年間計画表を作成し、毎月想定を変えて地震・火災に備えた避難・通報・消火訓練を実施しています。年1回の大学との合同消防訓練には職員が参加し、大学内の避難場所を確認し、救命講習を受講しています。また、危機管理マニュアルには不審者対応や事故防止策を明示し、年2回の不審者対応訓練でさすまたや催涙スプレーの確認を行っています。けがや事故が発生した際は事故簿を作成し、職員間で話し合い再発防止策を講じています。さらに、保育中のヒヤリハット事例を収集し、週案会議で共有して未然防止に活かしています。</p> <p><b>鍵付き書庫の利用やアクセス制限を設定し、個人情報の漏洩防止に努めています</b></p> <p>会社の個人情報保護方針が明示され、職員は入職時に守秘義務や個人情報の取り扱いに関する誓約書を提出しています。個人情報を含む重要書類は、鍵付きの書庫で管理して外部への持ち出しは禁止しています。パソコンにはIDとパスワードを設定し、アクセスを制限しており、アクセス記録を本社情報システム部で管理しています。保護者には、入園時に「保育園における個人情報の取り扱いについて」を用いて利用目的や第三者への提供、開示等を説明し、同意の署名を得ています。写真・動画の撮影・配信についても保護者の意向を確認し、対応しています。</p>		

5 職員と組織の能力向上			12/12
サブカテゴリ1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

カテゴリ5の講評

「職員区分の構成と定義」を用いて必要なスキルや職責等を説明することが望まれます

正規職員は本部の採用基準に基づいて採用し、必要な人材を各園に配属する仕組みとしています。非正規職員は園長の面接で採用し、前向きで大学内の園であることに理解のある人材を採用しています。園内の配置は、本人の希望と子どもの状況を考慮して行っています。長期的展望については、本部が「職員区分の構成と定義」を作成し、職位に応じたスキルや職責、任用の要件等を明示しています。一方、職員には都のキャリアアップ研修への派遣と併せて、主に経験年数に応じたスキル等を説明していますが、「職員区分の構成と定義」の周知も期待されます。

目標設定シートや個人別研修計画に基づいて、職員の育成に取り組んでいます

職員は毎年「目標設定シート」に目標と具体的な実行計画を記入し、年度初め・中間・年度末に園長と面談を行い、達成率を確認しています。また、半期に一度「スキル考課シート」を用いて本人考課を行っています。それを基に園長考課と本部確認を行い、賞与等に反映しています。個人別年間研修計画は、職員が主体的に取り組めるよう本人の希望も取り入れて作成し、オンライン研修も奨励しています。受講後は研修報告書を作成し、職員会議で共有しています。さらに、園内研修も積極的に実施しており、主体的な保育や感染症対応等をテーマに行っています。

仕事の見える化や協力し合える体制を整え、就業環境やチームワークを向上させています

就業状況は勤怠管理システムで把握し、休暇希望を考慮したシフトを作成しています。担当職員を交代するローテーション保育を導入していることで、全職員が偏りなく休暇を取得できる体制となっています。さらに、互いの仕事が見える環境も生まれ、協力しながら休憩時間を確保し、超過勤務の抑制につながっています。また、行事等を通じて、職員同士の関係やチームワークを高めるよう取り組んでいます。役割分担を明確にすることで、早い段階から自発的に取り組む姿が見られ、保育士・栄養士・看護師の間で専門性を超えた連携も見られています。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>【課題・目標】</p> <p>「次年度の園児確保に向けて、地域への働きかけを工夫する」を目標としました。</p> <p>【取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入園希望の見学者に対し、保育体験会を実施しました。見学の際は、パンフレットと園の取り組みをまとめた資料を配布しました。栄養士や看護師も体験会に関わりました。</li> </ul> <p>【取り組みの結果・今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学や保育体験会の参加者が入園し、地域枠が充足しました。</li> <li>・見学後の感想として、「丁寧な説明があった」、「入園後の具体的なイメージが湧いた」等の声がありました。</li> </ul> <p>今年度も継続して取り組む方針としています。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>東京都内の待機児童の減少に伴い、令和5年度は地域枠・学内枠の入園希望者や見学希望者が減少し、令和6年度開始時点で地域枠に欠員が生じていました。そこで、令和7年度の園児確保に向け、令和6年度は見学希望者を増やすため、地域への働きかけを課題としました。</p> <p>具体的な取り組みとしては、大学内に設置している関係で、保育園を広く開放して地域の人に自由に見ていただくことは行っていませんが、区立保育園との交流機会を増やし、卒園児を対象とした保育体験や近隣神社のイベント参加を通じて、園の認知度向上に努め、見学者数の増加につなげました。見学は園長が対応し、活動の写真等も示しながら園の概要や取り組みを丁寧に説明しました。また、保育士・栄養士・看護師による育児相談や、子どもが実際に保育室で遊ぶ保育体験も提供しました。結果として、見学後の好意的な意見や、入園につながった事例があり、園では取り組みの成果と評価しています。</p> <p>今年度も取り組みを継続し、園の存在や活動を地域に広め、園児確保につなげる方針としています。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

「子ども主体の保育を進めていく」を目標としました。

【取り組み】

- ・保育環境の見直しを折々に取り組みました。
- ・食事について子ども自身で食べ進められるよう話し合い、実践しました。

【取り組みの結果・今後の方向性】

- ・子ども自身で遊びを展開する姿や、集中して取り組む姿が見られるようになりました。
- ・食事では自分のペースで食べ進めることを大切にすることで、無理なくゆったりとした環境になり、個々の食べ方の理解につながりました。

今年度も取り組みを継続し、子ども主体の保育を進める方針としています。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

保育理念「こどもの自立の芽を育てる」や保育目標「自分で決められる子ども(自主性)」を考える中で、「見守る」ことの大切さを理解し、それを保育に活かすために、令和6年度の目標を設定しました。  
 具体的な取り組みとして、年度初めや年度途中の入退園に合わせて、子ども一人ひとりが主体的に活動できるよう職員間で話し合い、保育環境や援助の仕方を見直しました。園長が方向性を示す場面もありましたが、職員が自ら考え行動できるよう課題を投げかけ、意見を出し合って保育に反映しました。例えば、食事については、必要最小限の援助で子どもが無理なく食べ進められるよう、関わり方を話し合いました。子どものペースを尊重し、主体的な食べ進めを援助したことで、個々に合った量の理解にもつながり、栄養士との連携も円滑になったと園では評価しています。散歩中には子どもの視線や視点を大切に、子どもが主体的に活動できるよう関わりました。こうした関わりを継続したことで、子ども自身で遊びを展開し、集中して取り組む姿が見られるようになったと評価しています。  
 今年度も子ども主体の保育を継続し、保護者とも共有しながら学びを深めていく方針としています。

II サービス提供のプロセス項目 (カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(0000)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>園の情報は会社や大学、大田区のホームページ、パンフレットで提供しています</p> <p>利用希望者は、園のホームページから大学内保育所であることや大学校と地域枠があること等の情報を得ることができます。会社のホームページには系列園が掲載されており、当保育園を検索すると、区分として地域型保育事業(事業所内保育所)であることや、住所、電話番号、開園日、開園時間、室内の間取り、地図が確認できます。また、区のホームページには、園の欠員や空き情報、保育園の申し込み方法等、利用者が知りたい情報を提供しています。園のパンフレットは、英語で表記されているものも用意しています。</p> <p>関係機関と一緒に実施している運営委員会の中で、園の運営状況等を報告しています</p> <p>行政には、欠員や空き情報を報告しています。園で年2回開催している運営委員会には、大学担当者や本部担当者、第三者委員、保護者代表が参加しています。その中で園の運営状況、園児在籍数や職員状況、行事、避難訓練、地域交流、給食、食育等、写真を入れて冊子にし報告しています。また、園のパンフレットには表紙に子どもの写真を用いて、大学のキャンパスの写真、地図を分かりやすく載せています。保育園での一日、利用対象、利用時間、理念と方針として、運営理念、運営方針、保育理念、保育方針、保育目標と見やすい構成になっています。</p> <p>見学者にはパンフレットや独自にまとめた資料を渡し、丁寧な案内を実施しています</p> <p>見学者には、園のパンフレットの他に、独自に作成した「よくある質問をQ&amp;A」を書面にまとめて渡しています。受け入れについて、環境面、保育面に分けて初めての利用者にも分かりやすい工夫がなされています。入園希望の見学者には、保育体験会を実施しています。今年度は30名近い希望者があり、身長と体重の測定、離乳食の作り方、子どもたちと遊ぶ等、30分程の時間を設けています。2歳児までの園ですが、3歳児以降は連携園があることを伝えていきます。園の特色として、少人数保育でスペースも広く、大学との連携があることも伝えていきます。</p>	

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
2	サービスの開始・終了時の対応	6/6
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		<b>評点(000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得ようとしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		<b>評点(000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p><b>入園前オリエンテーションで重要事項説明を行い、保護者の同意を得ています</b></p> <p>オリエンテーションでは、入園のしおり(重要事項説明書)に沿って、一人ひとりの保護者に説明しています。園の理念・方針や保育内容、登園・降園時の注意事項、安全と健康管理、保育園の食事、入園申込および保育料、持ち物・準備して頂くもの、防災と安全管理、虐待防止、ご家庭と保育園のより良い連携を目指して、ご意見・ご要望等の申し出窓口設置等について説明をしています。また、個人情報の取り扱いについて利用目的や第三者への提供、開示等を説明し、同意の署名を得ているほか、写真・動画の撮影・配信についても同様に対応しています。</p> <p><b>入園前の子どもの状況はヒアリングシート等で把握し、不安な気持ちに対応しています</b></p> <p>入園前の子どもの状況を面談時に確認してヒアリングシートや児童票に記載し、保育を行う際に活用しています。面談時に、徐々に保育時間を長くしていく「慣れ保育」の必要性を伝えて、個々に合わせて進めています。家庭での子どもの様子や園での様子を日々保護者と確認しながら、保護者の就労状況も合わせて、無理なく慣れたいけるように努めています。また、入園当初は子どもの状況により、保護者と一緒に過ごしたり、食事を食べさせてもらったりすることもあります。一週間程度を目途に「慣れ保育」を実施しています。</p> <p><b>卒園時には継続した支援ができるよう、園長と面談を実施して方向性を確認しています</b></p> <p>当園は2歳児までの園であり、その後の方向性についても保護者と面談しています。学内卒の入園は年度途中であることも多く、都度対応して必要な情報を面談等で伝えています。節目である「大きくなったね会」は、成長をみんなでお祝いする会です。2歳児が卒園する際には、連携園に通いたい場合には申込みをしないと入園できないことを伝えたり、卒園後の状況を把握するために園長が面談をしています。年度途中の退園者にも同様に確認しています。継続した支援ができるように、卒園児を対象とした保育士体験や夕涼み会参加の機会も設けています。</p>		

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	13/13
3 個別状況の記録と計画策定			
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		<b>評点(〇〇〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		○非該当
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている		○非該当
サブカテゴリ-3の講評			
<p>子どもの状況は入園時のヒアリングシートや日々の連絡帳、日誌に記録し把握しています</p> <p>入園前の状況は保護者に聴き、ヒアリングシートや児童票に記録しています。日々ICTを活用した連絡帳や送迎時の会話等、子どもの様子を聴き、必要に応じて記録しています。保護者からの声は個人面談や運営委員会、行事後のアンケート、園評価アンケート、第三者評価の利用者アンケート等、様々な方法で受け取り、ニーズや課題をまとめて次年度の運営や保育に反映しています。児童票は0歳児は毎月、1・2歳児は4期に分けて記録し、子どもの成長や姿により備考欄に追記しています。各計画は定められた時期に見直しを行っています。</p> <p>0～2歳児の指導計画は全体的な計画を基に、5歳児の姿を踏まえて作成しています</p> <p>「全体的な計画」は0～5歳児までの姿を踏まえて作成しており、職員は発達の段階や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を確認しながら、各年齢での保育・教育活動を考えることができると考えられます。この計画を基に、0～2歳児クラスの年間・月間計画、週案を作成し、全ての計画の「評価・反省」を行い、全体会議で見直して次への立案に活かしています。一人ひとりの個人の計画や記録を作成しており、登降園時や面談の際に保護者に説明していますが、さらに保護者と共に育てる観点から、月のねらいを連絡帳に記載する等も必要と思われる。</p> <p>子ども一人ひとりに関する記録は適切に行い、日々の保育や職員会議で共有しています</p> <p>園では担当職員を固定せず、全職員が全員の子どもを把握できるローテーション保育を実施しています。記録の担当者は決まっていますが、交代しながら全クラスの子どもの状況を把握しています。愛着関係や信頼関係を築くために、一人ひとりの子どもを理解しながら無理なく進めています。週案会議のときには、子どもたちの現状や事例を挙げて話し合い、子どもたちに合わせた活動や職員配置を考えています。非正規職員には会議録を確認してもらい共有していますが、園では記録をより分かりやすくしたいと考えており、今後が期待されます。</p>			

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ5の講評			
<p>職員は子どもの人権を尊重し、環境を整え羞恥心に配慮した保育を実施しています</p> <p>子どもの成長や学内枠の子どもの入園するタイミング等に合わせて環境を見直し、子どもたちの活動や生活の保障をしています。室内は整頓されており、ロッカーやパーテーションをうまく使い空間を確保しています。生活面では特に集団ではなく個々の対応を心がけ、着替えは全裸にならないように、順番に着替えることを知らせながら援助しています。2歳児はトイレの中でおむつ交換や便器に座り、0・1歳児はパーテーションを利用しておむつ交換をする等の配慮を行っています。失敗があった際も、不安な気持ちにならないように配慮して援助しています。</p> <p>園の保育方針に則った保育を実践し、一人ひとりの子どもの意思を尊重しています</p> <p>職員は、園の保育方針である「受け止める保育・支える保育・待つ保育」を心がけ、子どもの先回りをして声をかけることのないようにすることや、子どもが見て分かるようにするためにどのようにしたらよいか考え、保育を行っています。園長は半期ごとの職員面談のときに、保育の中で感じていることを聴き、全職員の保育観が一致できるように個々の意見を尊重しつつ、大切にしてほしいことを伝えています。系列園共通の保育マニュアルには、全国保育士会倫理綱領をはじめ、「人権保育(差別の禁止)マニュアル」等が掲載されており、活用しています。</p> <p>職員研修やマニュアル等を用いて、虐待防止や育児困難家庭への理解を深めています</p> <p>事務室には虐待フローやチェックリストを掲示して、職員がいつでも確認ができるようにしています。また、園内研修では、虐待について理解を深めたり、自分達の保育の振り返りも行っています。虐待防止マニュアルを備え、虐待の疑いがある場合には園長に報告し、虐待対応マニュアルに沿って、観察や記録を丁寧に行い、必要に応じて子ども家庭支援センターと連携して対応することになっています。また、案件により、大学との連携も欠かさないようにしています。子ども家庭庁が作成した、児童の虐待防止及び発生時の対応等を確認しています。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		<b>評点(〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p><b>系列園共通の保育マニュアルを備えて、サービスの基本事項を明確にし、活用しています</b></p> <p>会社で作成した系列園共通の保育マニュアルは、職員が常時閲覧できるように事務室に備えています。保育マニュアルには、保育・保健衛生・危機管理・その他の項目に分かれており、保育に関する保育士の業務マニュアルやプール・水遊びマニュアル等があります。また、嘔吐下痢処理対応手順等、実際に必要な対応の仕方も載せています。その他には全国保育士会倫理綱領、人権保育(差別の禁止)マニュアル、不適切保育に関わる自己点検シートを備えて、職員で振り返りを実施しています。マニュアルには改訂日を記入し、適宜見直しを実施しています。</p> <p><b>園の手順書を作成し、必要な時期に見直し手順を明確にして職員に周知しています</b></p> <p>職員の業務を円滑に行うために、園として早番・遅番の業務内容を手順書として作成しています。子どもの月齢や人数により部屋の環境を変えたり、職員の人数等、変更があった際には都度見直しをしています。また、調乳室の準備・調乳・掃除の手順、水遊びのマニュアル(園の)等も作成し、職員がスムーズに対応できるようにしています。入園のしおりや入園のご案内(重要事項説明書)は、系列保育園と一緒に見直しを行っています。指導計画に関しては、定められている期日に自己反省を行い、次の計画に活かしています。</p> <p><b>保護者や職員の意見を反映したり、子どもの姿から職員の働きかけを工夫しています</b></p> <p>保護者からの意見や提案は、行事や保育参観・参加後のアンケート、園評価アンケート、運営委員会等で把握し、検討しています。昨年のアンケートから行事の在り方を検討し、保護者も子どもと一緒に参加する行事を設けました。保育環境は入園時の子どもの月齢や様子に合わせて、パーティーなどで区切ったり、導線を考えて部屋の使い方を検討しています。また、食事のときの子どもの姿から、担当職員と栄養士が連携して対応することにより、食具を使って食事を摂れるようになったこともありました。職員は園長との面談や会議の場で意見を伝えています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	
		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>一人ひとりの子どもの発達や状況を共有し、全職員で多様な視点から保育を行っています</p> <p>入園時に記載している児童票や健康診断等の子どもの記録とともに、週案・月案・職員会議で子ども一人ひとりの発達や状況について職員間で共有しています。家庭での状況は朝・夕の送迎時に保護者との会話や連絡帳で確認・把握しています。当園では職員がクラスを回り、各年齢の保育を行うローテーション保育を実施しています。全職員が多様な視点から子どもを見守り、子ども一人ひとりの成長を多面的に把握しており、週案会議の中で一週間のローテーションを決めて、子ども全体を共有でき、保育の質の標準化にもつながっています。</p> <p>子どもの姿から興味・関心のあるものを提供し、遊びこめる環境づくりに工夫しています</p> <p>保育方針に「受け止める保育・支える保育・待つ保育」を掲げて、実現のために子どもの発達段階に応じた環境設定を考えています。0~2歳児の全クラスで、子どもの姿から興味・関心のあるものや、自分で自由に手に取って遊べる子ども主体の環境を設定しており、コーナーの配置や職員の手作り玩具が多数作られています。子どもたちの年齢に関係なく、他のクラスの活動に興味が出てきたときは、子どもの自主性を受け止めて参加しています。日頃のローテーション保育も活かされ、職員が連携して子どもたちが遊びこめる環境づくりに取り組んでいます。</p> <p>遊びこめる環境を作り、子どもの気持ちを受け止め不要なトラブル回避に努めています</p> <p>園の保育理念・方針として「こどもの自立の芽を育てる」、「受け止める保育・支える保育・待つ保育」を掲げています。発達の過程で生じる子ども同士のトラブルや、言葉で自分の気持ちを伝える力が未熟である子どもの姿から、0~2歳児の保育の特徴を「てくてく保育園入園のご案内」に載せて保護者に説明しています。トラブルを想定して指導計画にも盛り込み、子どもの様子を見守り、双方の気持ちに寄り添いながら受け止め、危険なときには介入し、日々の保育の中で遊びこめる環境づくりとともに、理念・方針に基づいた保育を実践しています。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している			○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている			○非該当
評価項目2の講評				
<p>登園時には子どもの様子を聞き、降園時には園での様子を画像や口頭で伝えています</p> <p>家庭との連携を取り子ども一人ひとりに応じた対応ができるように、登園時には担当職員が前日の子どもの様子や健康状態をアプリの連絡帳で確認し、職員も検温を伝達ノートに記入して、全職員で共有しています。園での子どもの状態を保護者と共有することができるように、降園時にはその日の子どもの様子を伝えたり、アプリの連絡帳を活用し写真を入れて保護者に配信しています。クラス担当職員でなくとも個々の子どもの様子を把握し、保護者には伝達ボードを確認して、必ず口頭で子どもの様子を伝えられるように取り組んでいます。</p> <p>子どもの状態を保護者と共有し、生活習慣が身に付くよう一人ひとりに働きかけています</p> <p>一人ひとりの個別の月間指導計画を基に、見通しを保護者に伝えて、個々の状況を見ながら服の着脱や靴の脱ぎ履き、トイレトレーニング等、生活習慣の自立に向けて働きかけています。園では、環境を考え、生活に関する保育教材を活用して絵本を見たり、手洗いの場所には「しっかり手洗い、バイキンばいばい」と掲示するなど、子どもが興味を持って行えるように工夫しています。また、看護師や栄養士とも連携して健康、食事に関する働きかけを行い、手洗いの大切さややり方、食事を楽しく食べられるよう、基本的な生活習慣習得の取り組みを進めています。</p> <p>休息時間は、家庭での睡眠時間や子どもの体調、様子に合わせて柔軟に対応しています</p> <p>休息時間は、家庭での状況を踏まえながら一日を通して考え、子どもに無理のないように配慮しています。登園時に保護者からの連絡や連絡帳を確認し、一人ひとりの子どもの状況を把握しています。保護者からの要望があれば配慮しており、子どもが日中の活動に支障があれば、子どもの様子を伝えながら子どもに合わせた午睡時間を保障しています。入眠と目覚めが一人ひとり違うことから、十分な睡眠の保障や早く目覚めた子どもが遊ぶことのできる広いホールの環境があり、午睡の子どもと目覚めた子どもの保障をすることができ、十分な対応を行っています。</p>				
3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(000000)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている			○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関わるよう援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている			○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている			○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している			○非該当
評価項目3の講評				
<p>様々な角度から環境を考え、子どもたちが自ら遊びを見つけられるよう工夫しています</p> <p>園では、愛情あふれる環境で子どもが遊びを選び過ごせるようなコーナー保育の環境作りを行い、受け止め・支える・待つ保育を実施しています。職員が愛情を持って接して、子どもたちが自分で遊びを見つけられる魅力あるコーナー作りや、様々な手作り教材を提供しています。職員は一人ひとりの子どもと丁寧にかかわる時間を多く持ち、制作の際には少人数で行い、遊びを継続できるような環境を整えています。各クラス活動や子どもの関心に応じたコーナー遊びには、年齢を超えて子どもの自主性、自発性を尊重して、職員は柔軟に対応しています。</p> <p>英語の歌や手遊びなど様々な表現遊びを保育に取り入れ、子どもたちは楽しんでます</p> <p>職員はまだ自分の思いを言語化できない子どもの言葉に耳を傾けて共感し、子どもの気持ちを汲み取り代弁したり、表出できるように援助しています。子どもの年齢や発達、興味に合わせて歌や絵本、紙芝居の読み聞かせ等、計画を立てて日々行い、言語遊びを楽しんでいます。また、ダンスや絵画、寒天の感覚遊びなど、子どもたちの五感を養う遊びを展開しています。また、月1回、外部講師による、英語リズムックを実施しており、英語の歌や手遊び、運動遊びを取り入れ、友だちや職員と一緒に楽しんでます。</p> <p>恵まれた自然環境のもと、散歩で子どもたちは季節の変化を身近に感じています</p> <p>当園は自然に恵まれた大学キャンパス内に立地しており、園周辺は緑豊かな木々に囲まれています。晴れた日には近隣に散歩に出かけて行き、緑葉樹の葉や紅葉する葉の季節による変化の違いや、草花、日陰の寒さと日なたの温もりや暖かさ、草を踏みしめる音、風など身体で感じながら、子どもたちに四季の変化を伝えて、図鑑を見たりする機会も設けています。職員はお散歩マップを作成して、キャンパス内を散歩したり、近くの公園に出かけています。戸外の散歩の際には交通ルールを意識して、職員が手本となり、道路を渡る時のルールも伝えています。</p>				

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は日常の保育の延長と捉え、子どもが自ら楽しんで参加できるよう取り組んでいます</p> <p>保護者参加の行事(うんどうかい、おおきくなったねの会)は、子どもが保育活動で行っている分かりやすい内容を取り入れ、親子で一緒に楽しめるものを企画して、保護者にも無理のない時間(15時45分から)で開催しています。各年齢の子どもの発達や日頃の興味・関心に合わせて、遊びを披露できる場になるようにしており、保護者と一緒に楽しんで取り組めるような活動を実施しています。また、季節に合わせて行っているお月見会やお正月会、節分等の年中行事では、子どもたちが伝統的な行事の雰囲気を楽しめるように取り組んでいます。</p> <p>0～2歳児の子どもたちが楽しんで、主体的に行事に参加できるように取り組んでいます</p> <p>夕涼み会やおたのしみ会の行事では、子どもたちが興味・関心を持ち楽しんでるものをプログラムに取り入れ、保育活動や遊びの延長として主体的に取り組んでいます。職員は保護者に観てもらおうことを子どもたちに伝えて、いつもと違う意識を持たせていますが、無理のないように取り組んでいます。おたのしみ会では絵本にある題材で、0歳児は体を揺らして楽しみ、1歳児は一人ひとりが働く車になり、2歳児は「お買い物ごっこ」の劇をお店屋さんになり行い、友だちと一緒にやる楽しさと行事に取り組む面白さを0～2歳児でも感じ取っています。</p> <p>行事の様子を知らせ、保護者に事前アンケートを取り参加しやすいようにしています</p> <p>年間行事の日程は「入園のご案内(重要事項説明書)」に記載して保護者に知らせ、年度初めに年間行事予定表を配付して伝えています。また、行事前には再度知らせるとともに、連絡帳に行事の取り組みの子ども様子を記載しています。また、保護者が参加する行事について、参加しやすいように事前に行事参加アンケートを取り、内容を検討して、理解と協力を得ています。今年度の保護者参加行事の開催時刻は、無理のない時間を設定しています。行事後も毎回アンケートを取り、次年度の保育運営や行事に活かしています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間過ごす場所として職員は子どもと穏やかに関わり、くつろげる環境を整えています</p> <p>子ども一人ひとりの発達、生活リズム、心身の状態に配慮し、日中の保育とのバランスを取ることを心がけています。全体の園児数に合わせて、延長時間の部屋の移動などの過ごし方を検討して、一つの部屋で合同で過ごしています。職員は日常的にローテーション保育を実施しており、全職員が全ての子どもの把握して、家庭的な雰囲気の中で過ごすことを大事にして、子どもが遊びたい玩具で遊ぶなど寄り添った保育を行っています。また、朝・夕保育専用の絵本もあり、制作をすることもあります。18時30分過ぎには、補食の提供をしています。</p> <p>保育時間が長くなる中で子どもたちが楽しめる環境作りや活動に配慮して過ごしています</p> <p>朝・夕保育の時間は、子どもたちは異年齢で過ごしています。月間指導計画に長時間保育の環境構成の配慮を記載して、一日の疲れや不安な気持ちを考慮し、スキンシップを図り安定してゆったりと過ごせるよう、子ども一人ひとりと丁寧に関わるように努めています。また、遅番担当職員に一日の様子を丁寧に伝え、無理なく過ごすようにしています。職員は子どもがリラックスして楽しめるような働きかけに努め、人数が少なくなってくる状況で寂しくならないように、1対1で絵本を読んだり関わることで、安心して楽しく過ごすことに配慮しています。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもたちは落ち着いた環境、楽しい雰囲気の中で食事ができるように配慮しています</p> <p>保育室は調理室と隣接しているおり、今日の献立の調理の匂いが子どもたちに届き、食欲をそそります。職員は「今日の献立は何かな」と子どもたちに言葉かけをして、食事への意欲が持てるように配慮しています。各年齢で食事と生活空間を分けており、落ち着いた環境で食事を行うことができます。子どもたちの食事の席は決まっており、落ち着いた、楽しい雰囲気の中で食事をしています。毎月1回給食会議を行い、各クラスから出される食材や味付けへの意見、子どもの喫食状況、食育への取り組みなどから、献立や調理、食育活動の参考にしています。</p> <p>行事食やお誕生会メニュー等、子どもたちが喜ぶ献立を工夫して提供しています</p> <p>系列園共通の献立はありますが、栄養士が献立を作成しています。月1回のお誕生日メニューは、子どもの人気メニューを提供しています。こどもの日の行事食は、ご飯をこいのぼりの形にし、うろこは人参を半月切りにしてカレーの中を泳いでいます。クリスマス会では、ほうれん草のパンケーキの上に生クリームを絞りその上にイチゴを刻んで飾っています。2歳児の遠足にはバックにおにぎりやハンバーグ、星形ポテト、ハート形の人参、果物などを詰めて届けています。栄養士の様々なアイデアで、子どもが喜ぶようなメニューを工夫しています。</p> <p>食に関心が持てるように、年齢に応じてクッキング、栽培、収穫等に取り組んでいます</p> <p>年齢別の年間食育計画を作成し、食べることを楽しみ、喜び、食に関わる体験を通して、健康的な生活の基礎となる「食を営む」を育成することをねらいに、職員と栄養士が連携して食育活動に取り組んでいます。楽しく食べることから始め、絵本や実際に食材を見ることにより食べ物に関心をもち、触れる体験や興味を持てるような活動を取り入れています。栽培ではプランターで人参、パセリ、赤しそ、トウモロコシ等を育て収穫し、赤しそをジュースにしたり、職員と調理が連携して年齢に応じてケーキのトッピングやかぼちゃのクッキー作りをしています。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもに健康的な生活を送ることや、安全に気を付けることを、計画的に伝えています</p> <p>心身ともに健康に成長するために、「年間保健計画」を作成して四半期ごとの取り組みを決め、子どもの年齢や発達段階に応じて健康指導を行っています。職員は活動の区切りに子どもと一緒に手洗いやうがいをしています。手洗いの仕方の掲示はありますが、「ばい菌さん、ばい菌さん」等、子どもにわかるように言葉をかけ、絵本や紙芝居を用いて手洗いの大切さを伝えています。歯科検診時には口腔内の清潔について2歳児を対象に紙芝居をし、咳エチケットでは「手でマスクを作ろう」等、子どもに健康と危険について理解ができるように繰り返し伝えています。</p> <p>医療機関とも連携しながら、子どもの心身の健康が維持できるよう支援しています</p> <p>入園時に健康に関する調査票を基に個別に必要な支援の状況を把握し、保護者やかかりつけ医と連携が図れるようにしています。嘱託医による検診を0歳児は毎月、1・2歳児は年に2回実施しています。歯科医の検診は年1回実施し、身体測定は毎月、身長・体重の測定をします。登園時には職員が検温と健康状態を確認するとともに、看護師が昼と午睡明けにクラスを見て回り、子どもの様子を確認・検温をして、日々の健康管理をしています。保育中の体調不良やけがなどの際に、看護師が確認をして保護者に連絡をしています。</p> <p>子どもの心身の健康づくりの視点を共有するため、保護者に有用な情報を提供しています</p> <p>毎月の身体測定、嘱託医による0歳児の毎月の検診、1・2歳児の年2回の健康診断、歯科検診等の結果は保護者に伝え、サインをもらっています。乳幼児突然死症候群については、ポスターを掲示するとともに、園では0歳児は5分おき、1・2歳児は10分おきに、午睡時の呼吸チェック確認を行い記録しています。毎月、大田区保育サービス課保育園の看護師が発行している「健やかな子育てだより」を保護者に配付して健康や危険回避のことなどを知らせています。感染症が発生したときは、いち早く園の発生状況を伝えて、保護者にも注意喚起しています。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>保護者の就労に柔軟に対応し、安心して子育てができるように支援しています</b></p> <p>入園の際には保護者から就労時間による申請を受けて、保育時間としています。急な保育時間の変更には、スポット保育を実施しており、柔軟に対応しています。子どもがいつもと違う環境に不安が生じないように、安心できる人や玩具等の環境を整えています。また、園での親子行事や懇談会は、普段園で顔を合わせることがない保護者同士が話をする良い機会になっています。同年齢の子どもだけでなく年齢の違いによる発達や行事への取り組み等を見ることができ、日々の子どもの姿と合わせて、安心して子育てができる環境になっています。</p> <p><b>職員と保護者との強い信頼を確立するために、園全体で統一した対応に努めています</b></p> <p>日々のコミュニケーションを大切にしており、送迎時には園での子どもの様子を伝えたり、保護者からの意見や問い合わせも積極的に聴いています。受けた職員は、そのときに返答せずに園全体のこととして園長に伝え、統一した対応ができるように心がけています。親子行事や面談、運営委員会等、保護者と話ができる機会も多くあり、信頼関係が確立していると思われます。今回の第三者評価の利用者調査では保護者の100%が大変満足していると回答しており、コメントにも感謝の声や子どもが楽しく通っている姿が見られる等の声が寄せられていました。</p> <p><b>保護者の声を聴き、園の保育活動への参加を促し、養育力向上を図っています</b></p> <p>行事後のアンケートや日々の保護者の声を聴き、保護者が参加しやすい日程や時間を配慮しています。保護者参加の行事を多く取り入れ、行事が始まる前に、園長と保護者が懇談する機会を設けて保護者の声を聴いています。また、行事に参加することで、職員と子どもとのやり取りや子ども同士の関わりを見ることができ、家庭での育児に活かせると思われれます。保育参加や保育参観の機会もあり、保護者は参加しやすい環境になっています。園長は、2歳児クラスの保護者と卒園後の方向性を確認し、相談を受ける体制も整えています。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>近隣の神社、近隣保育園の園庭開放等、子どもたちが体験する機会を設けています</b></p> <p>近隣の神社が主催している行事では、5月の子どもの日に向けてこいのぼりに色を塗ったり、お願いごとの紙をもらい記入しています。近くのスーパーに牛乳を買いに行くこともあります。区立保育園で実施している園庭開放への参加、大学構内を抜けて芝生のところまで散歩に出かけ、地域住民等と交流をしています。勤労感謝の日には、子どもたちが作った翌年度のカレンダーを大学の関係者や、日頃お世話になっている人にプレゼントをしています。探究学習プログラムを実施しており、サイエンスにちなんだ光について2歳児の保護者に講師をお願いしました。</p> <p><b>卒園児参加の行事を設けていますが、地域に向けたイベントを検討したい意向があります</b></p> <p>卒園児を対象としたキラキラ保育士体験は、小学校の低学年の子どもたちに向けて、参加者を募っています。メールや電話等で連絡し、2日間に分けて5名くらい参加しています。夏休みの午前中に水遊びや公園への散歩をし、絵本を読んでもらったり、ピアノの演奏をしてもらおう等、一緒に遊び、職員以外の子どもたちとのやり取りを楽しんでいます。遊んだ後は給食を食べて帰宅するという体験になっています。今後は地域に向けての活動を考えており、近くの公園で遊びに来ている子どもを巻き込んで遊んだり、地域との連携を強化したい意向を持っています。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	保育目標の実現に向けて、ローテーション保育により子どもの全体的姿を把握しています	
内容①	運営理念『成長の環』を無限に広げる』に基づき、保育理念・方針・目標を掲げており、日々の保育において「自主性」「社会性」「慈愛の心」を持った子どもを育むことに取り組んでいます。職員はローテーション保育を実践して、子どもの発達過程や一人ひとりの全体的な姿を把握・共有しながら保育を展開しています。ローテーション保育は、週案会議で一週間のローテーションを組み、事務室のボードに掲示しています。職員間で連携して行う保育により、0～2歳児の子どもを多面的に見ることができ、きめ細やかな保育の実践につながっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	入園状況に合わせて環境を見直し、豊かな遊びが展開できる手作り玩具も工夫しています	
内容②	当園は地域型保育事業の事業所内保育所として、国立大学内の構内に大学の職員や学生の子どもと一緒に、地域の子どものも利用できる人数枠があり、年度や年度途中での入園があります。その際には、保育目標の1つである「自分で決められることも『自主性』」を育むために、環境設定を定期的に見直しています。子どもの発達年齢に応じた生活の空間と遊びの空間を考慮した工夫がされており、子どもが主体的に遊びを選択して、遊びこめる空間となっています。そこには職員手作りの多種多様な玩具、感触遊び、手指を使って遊ぶ物などが整えられています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者と一緒の実施する行事は保育活動を通じて職員と保護者の信頼関係を築いています	
内容③	保護者が参加できる行事は、子どもの園での様子や他の子との関わり等を見ることができる機会になっています。行事を見るだけでなく、夕涼み会では子どもと一緒にお店を回ったり、てくてくピクニック(うんどうかいごっこ)等でも競技に参加しています。保育参観や参加の機会も設け、年齢により隠れて見てもらうこともあります。園での姿を見られる貴重な時間になっています。行事後のアンケートでは、我が子の成長を感じたことや保護者同士の交流ができたこと、職員の子どもへの対応を見て信頼関係がさらに深まったことを評価する声が寄せられています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	事業計画の重点目標である保育の質の向上や人材育成、ICTシステム継続や給食等を掲げて実践し、保護者の高い満足度を得ています
	内容	今年度の事業計画を作成し、受けとめる保育・支える保育・待つ保育方針を念頭に、きめ細やかな職員の対応や子どもの年齢や興味に合わせた環境を作ることを、職員会議や週案会議の中で確認し、実践しています。保護者への連絡ツールとしてICTシステムを導入しており、連絡帳等で日々の子どもの姿を伝えられるように、今年度も継続して実施しています。昨年度の重点目標として掲げていたおむつのサブスク導入は、保護者の負担軽減につながっています。きめ細やかな保育活動により、第三者評価の利用者調査では100%の満足を得ています。
2	タイトル	大学構内にある0～2歳児の事業所内保育所ですが、年間で子どもの「成長の環」を無限に広げるように、多彩な行事を実施しています
	内容	当園は国立大学法人の構内にある、0～2歳児の事業所内保育所です。大学関係者の入園受け入れ枠と地域の子どもの受け入れ枠の両面から、少人数の子どもたちが在園しています。運営理念には「『成長の環』を無限にひろげる」ことを掲げており、日々の保育を展開しています。0～2歳児だけの在園ですが、日々の保育に変化と潤いを持たせ、様々な行事に取り組んでいます。行事は季節ごとの日本の伝承行事や、子どもが楽しみながら取り組み、保護者とともに成長を感じることのできる行事など、乳児（0～2歳児）ながら多彩な行事を実施しています。
3	タイトル	少人数の職員体制のもと、共有可能な情報はすべて共有する方針で情報伝達や会議を行い、認識を統一しながら運営を進めています
	内容	当園は定員12名の小規模園であり、少人数の職員体制で園運営を行っています。その中で、職員の発言のばらつきが保護者の不安につながらないように、情報共有の徹底や認識の統一に努めています。園長は「共有できる情報はすべて共有する」という方針を持ち、日々の情報伝達に加え、丁寧な週案会議や職員会議を重ねながら、全職員が関わって園運営を進める姿勢を示し、職員の自覚と責任感の育成を図っています。自己評価では、正規・非正規を問わず、多くの職員が運営や保育の全般を理解している様子が見られ、情報共有の取り組みの成果がうかがえます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中長期計画と事業計画の連動性をさらに高めるとともに、目標の達成状況を明確に示し、継続的な改善を推進することが望まれます
	内容	長期計画（5年間）に基づき中期計画（2025年度～2027年度）を作成し、保育の質向上や園児数の充足等に取り組んでいます。事業計画書では8つの重点目標を掲げていますが、中期計画との連動性には課題が見受けられます。計画の進捗状況は中間と年度末に確認し、保育に関する事項は運営委員会で報告しています。事業報告書には、毎月の園児数や研修受講状況に加え、保育の様子を掲載していますが、重点目標の達成度が把握しづらい状況です。達成状況を明確にし、PDCAサイクルを効果的に回すことで、継続的な改善の推進が望まれます。
2	タイトル	若手職員の育成に向けて、段階に応じた役割や成長の道筋を分かりやすく示し、心理的不安を軽減し意欲向上につなげることが望まれます
	内容	若手保育者が多く、現在は主任や副主任が不在です。園長が留守の際は保育リーダーに任せ、必要に応じて設置者の大学とも連携し対応していますが、園では副主任の育成を課題としています。職員の育成は、目標設定シートや個人別研修計画を基に計画的に行っています。キャリアアップ研修にも適宜派遣し、それに併せて必要なスキルを説明していますが、本部作成の「職員区分の構成と定義」を用いてキャリアパスを説明することも必要と思われます。段階に応じた役割や成長の道筋を示すことで、心理的不安の軽減や意欲向上につなげることが望まれます。
3	タイトル	地域に根ざした園づくりを掲げ、近隣施設との交流や見学者への保育体験の機会を設けており、今後のさらなる取り組みが期待されます
	内容	子どもたちが様々な人と関わり体験や交流ができるように、神社が主催する活動への参加や商店への買い物、区立保育園の園庭開放への参加を行っています。また、子育て支援として入園希望者に保育体験ができる機会も設けています。30名近い希望者があり、園児と一緒に遊んだり質問を受けたりと、好評を得ています。園ではさらに職員の専門性を活かして、公園で地域の子どもたちと遊ぶ機会を作り保護者の悩みを聴いたり、時間と場所を決めて職員が専門的な話をする時間を設ける等、地域貢献の活動を検討しており、実現に向けた取り組みが期待されます。